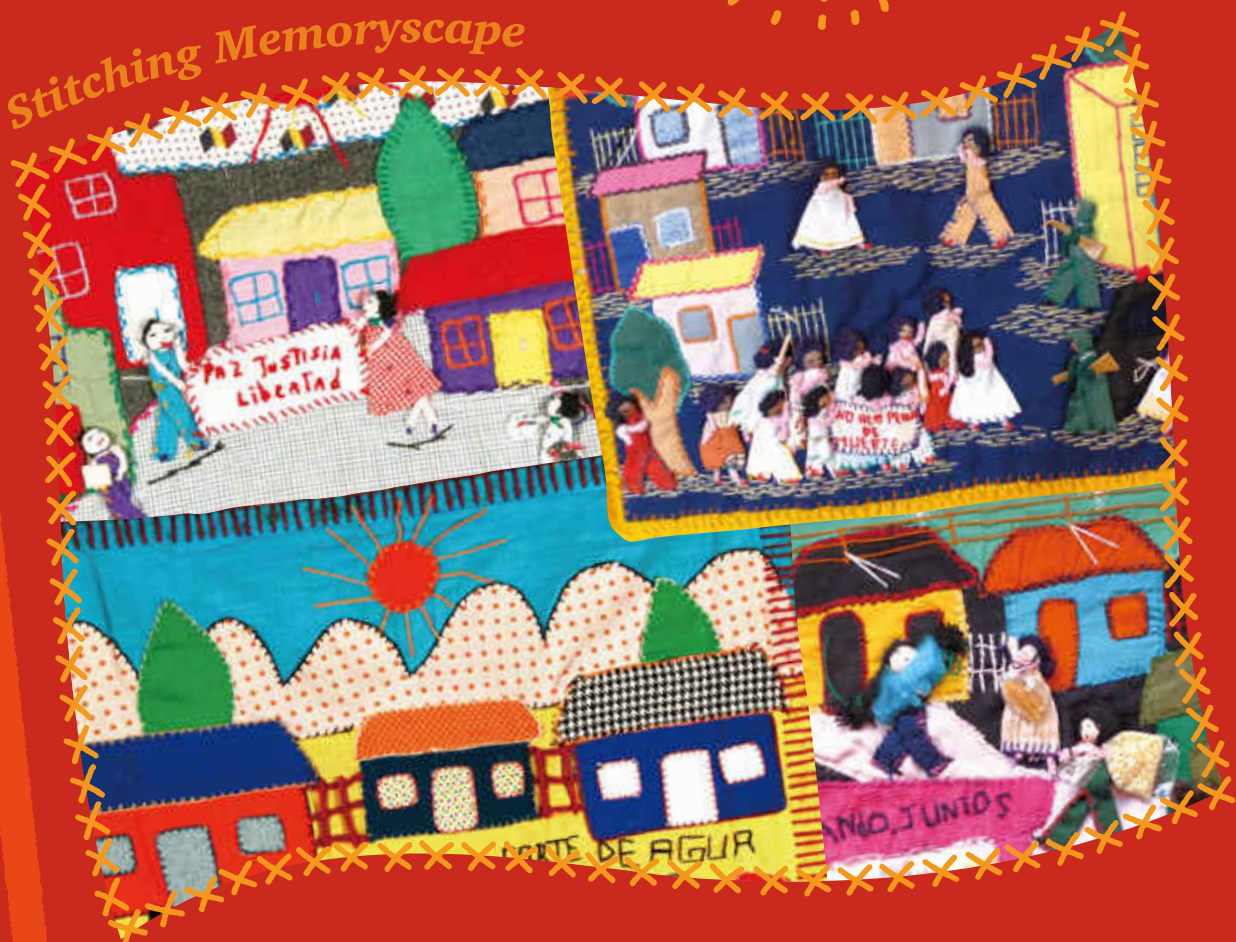


Stitching Memoryscape



記憶風景を縫う

チリのアルピジェラと災禍の表現

仙台展

東京エレクトロンホール宮城
5階501展示室

2017年

5月30日(火)～
6月12日(月)

京都展

同志社大学寒梅館ギャラリー
(寒梅館地下1階)

2017年

7月1日(土)～
7月9日(日)

長崎展

長崎県美術館
県民ギャラリーA室

2017年

8月29日(火)～
9月3日(日)

[全会場入場無料]

主催:「記憶風景を縫う」実行委員会 共催:東北学院大学地域共生推進機構、Survivart、Conflict Textiles
助成:公益財団法人朝日新聞文化財団、平成29年度科学研究費補助金 若手(B)、東北学院大学平成28年度学長研究助成金

記憶風景を縫う

チリのアルピジェラと災禍の表現



「アルピジェラの作業所」マリア・メネセス、1991年 ©大島博光記念館

本展覧会では、南米チリの軍政期(1973~1990年)に発達したタペストリー<アルピジェラ>と、戦争・紛争や災害の経験を描いた国内外の裁縫作品をともに展示します。展示は仙台、京都、長崎を巡回し、それぞれの土地で重ねられてきた経験や表現との対話をこころみます。布の上に描かれた記憶風景を媒介に、自身につながる経験と向き合う場をつくるのが本展のねらいです。

アルピジェラとは

アルピジェラはチリの貧しい一般女性が古着や布の切れ端から作ったパッチワークです。アンデスの山々と貧困地区特有の光景を背景に、コミュニティの助け合いや、ピノチェト軍政下の人権侵害を訴える活動が描かれます。素朴な造形と日常生活になじんだ素材・技術を用いるアルピジェラの技法は、見る人の五感に深く訴えかけ、破壊的な経験との向き合い方について多くのことを考えさせるものとなっています。

また、共通の苦しみや困難を抱える人たちが集い、雑多な話をしながらそれぞれの経験を縫っていく営みは、女性たちに憩いの場をもたらし、日々を生きるための力も与えました。その様子は、東日本大震災後に被災地で見られた多くの活動と共振するものでもあります。

本展では、軍政期のチリで作られたアルピジェラ、およびアルピジェラと共鳴する国内外の裁縫作品、合計30数点を展示します。

第一部 アルピジェラの技法 その特徴と力

貧困地区の日常風景、抑圧的な体制への抵抗、あるいは失った人への思いを描く作品を通じて、アルピジェラのエッセンスに触れます。



「死刑制度反対」作者不明、1990年 ©大島博光記念館

第二部 アルピジェラにみる歴史の記憶

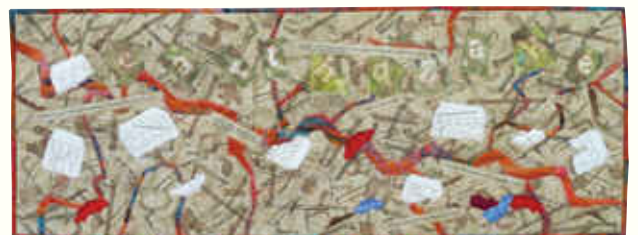
チリ現代史の記憶風景をアルピジェラを通じて見ていきます。



「フェンスの向こう側」アントニア・アマドル、2015年 ©Conflict Textiles

第三部 戦禍・災禍にかかわる世界の裁縫作品

アルピジェラと共鳴する他国の裁縫作品を見ていきます。



「震災の三部作」より「地震」アイリーン・マクウィリアム、2012年 ©Conflict Textiles

第四部 わたしたちの記憶風景

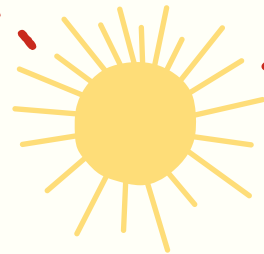
国内の震災・戦争経験にまつわる裁縫作品を通じて、私たち自身にとっての記憶風景について考えます。

本展によせて

ロベルタ・バチチ (キュレーター)

アルピジェラと、そこに描かれた故郷の山々は、喋りの言葉とは異なるあり方で人びとの経験を伝える「縫われた言葉」となっていました。(…)
「生きられた」布切れの手触りが縫い合わされるとき、そこに痛みと生のしなやかさを表現する一つの絵が浮かび上がるのです。

「記憶風景を縫う」図録より



仙台展 関連イベント

会場はいずれも東京エレクトロンホール宮城 5階展示室。
京都展、長崎展でも関連イベント開催予定。

オープニングレセプション & ガイドツアー

5月30日(火) 13時～
参加無料、予約不要

ガイドツアー

6月8日(木) 15時～、10日(土) 14時～
参加無料、予約不要

ワークショップ「アルピジェラをつくってみよう」

6月3日(土) 10～12時
参加無料、要予約

※「記憶風景を縫う」実行委員会 arpilleras@survivart.netまで、
参加者名、人数、連絡先を明記のうえ、メールを送ってください
参加条件：小学5年生以上
持ち物：不要。使い慣れた裁縫道具、古着や思い入れのある布地・小物などが
あればご持参ください。

シンポジウム「記憶を縫う、表現をうたう」

6月3日(土) 14～17時
参加無料、予約不要

登壇者：ロベルタ・パチチ(キュレーター)
コメンテーター：高橋正明(東京外国語大学名誉教授)
郭基煥(東北学院大学教授)

トーク「東日本大震災と手仕事」

6月9日(金) 19～20時30分
参加無料、予約不要

足立千佳子(編んだもんだらプロデューサー)



仙台展関連イベント登壇者プロフィール

足立千佳子(あだち・ちかこ) まちづくりプランナーとして全国各地の地域づくりに携わる。東日本大震災後は地元宮城の復旧・復興活動に奔走。津波被害のあった宮城県北部沿岸地域の女性たちとともに、オリジナルデザインのエコたわし「編んだもんだら」の製作・販売を展開している。

郭基煥(かく・きかん) 1967年、愛知県生まれ。東北学院大学教授。専門は差別論、現象学的社会学。主著に『差別と抵抗の現象学—在日朝鮮人の“経験”を基に』(新泉社、2006年)。

高橋正明(たかはし・まさあき) 1945年、東京都生まれ。東京外国語大学名誉教授。ラテンアメリカ現代史専攻。主著に、民政移管前夜のチリ各地の様子を記録したルポルタージュ『チリ・嵐にざわめく民衆の木よ』(写真家の小松健一との共著、大月書店、1990年)。

ロベルタ・パチチ(Roberta Bacic) 1949年、チリ・サンティアゴ生まれ。研究者・人権活動家。英領北アイルランド在住。これまでに、ニューヨーク国連プラザ(米国)、チリ大使館(英国)、ゲルニカ平和博物館(スペイン)、ラテンアメリカ記念館(ブラジル)など世界各地で大小100以上のアルピジェラ展をキュレートしている。



「記憶風景を縫う」実行委員会プロフィール

2016年4月より本展に向けて組織、活動開始。仙台では、2016年6月～2017年1月にかけて、チリの文化・政治状況、被災地の手仕事活動、および裁縫を通じた社会支援や政治行動などをテーマに月1回の公開勉強会を行う。

長内綾子(おさない・あやこ) 1976年、北海道生まれ。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒。2004年、Survivart(サバイバート)設立。2011年11月、震災を機に仙台へ移住し、ビジネスと文化の両方の現場でキュレーションなどを行っている。

酒井朋子(さかい・ともこ) 1978年、北海道生まれ。東北学院大学教養学部准教授。専門は人類学、記憶研究。主著に『紛争という日常—北アイルランドにおける記憶と語りの民族誌』(人文書院、2015年)。実行委員代表。

高橋創一(たかはし・そういち) 1986年、宮城県泉市生まれ。編集、ライター、その他。文化施設や企業、NPO法人などの広報物や報告書、書籍の編集、構成を主に手掛ける。

宮本直規(みやもと・なおき) 1971年、東京都生まれ。東北学院大学教養学部講師。専門はフランス語学。

【京都展 実行委員】 尹慧瑛(ゆん・へよん) 1973年、東京都生まれ。同志社大学グローバル地域文化学部准教授。専門は社会学、エスニシティ論。主著に『暴力と和解のあいだ—北アイルランド紛争を生きる人びと』(法政大学出版局、2007年)。

【長崎展 実行委員】 友澤悠季(ともざわ・ゆうき) 1980年、神奈川県生まれ。長崎大学環境科学部准教授。専門は、環境社会学、公害・環境思想史。主著に『「問い」としての公害—環境社会学者・飯島伸子の思索』(勤草書房、2014年)。

図録出版のお知らせ

「記憶風景を縫う」展開催に合わせ、30点以上の展示作品やその解説、またアルピジェラが制作された背景の解説などで構成された図録を出版します。アルピジェラについてのまとまった出版物としては国内初となります。ぜひ、会場でお買い求めください。定価1,000円(税別)。



各会場アクセスマップ



仙台展 2017年 5月30日(火)～6月12日(月) 11～19時

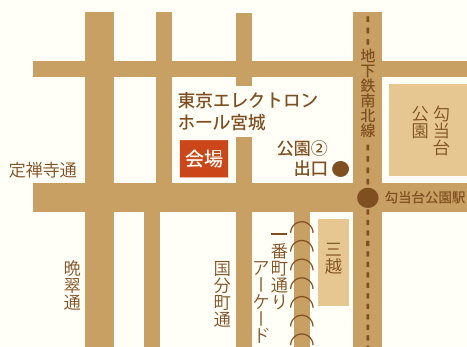
東京エレクトロンホール宮城 5階501展示室

住所:仙台市青葉区国分町3-3-7

地下鉄南北線勾当台公園駅下車、公園2出口より徒歩4分。

入場無料

協力:大島博光記念館 / 後援:朝日新聞仙台総局、河北新報社、
KHB東日本放送、毎日新聞仙台支局、宮城県文化振興財団



京都展 2017年 7月1日(土)～7月9日(日) 11～18時

同志社大学寒梅館ギャラリー(寒梅館地下1階)

住所:京都市上京区御所八幡町103

地下鉄今出川駅下車、2番出口より北へ60m程。

駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

入場無料 ※会場スペースの都合上、規模を縮小しての展示となります。

協力:同志社大学グローバル地域文化学部、大島博光記念館
後援:朝日新聞京都総局、京都新聞

※京都展お問い合わせ:同志社大学グローバル地域文化学部事務局
ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp



長崎展 2017年 8月29日(火)～9月3日(日) 10～19時

※最終日は～16時

長崎県美術館 県民ギャラリーA室

住所:長崎市出島町2-1

長崎電気軌道出島電停より徒歩3分、市民病院前電停より徒歩2分。

入場無料

協力:大島博光記念館、長崎の証言の会

後援:NHK長崎放送局、KTNテレビ長崎、長崎市教育委員会、長崎新聞社



お問い合わせ

「記憶風景を縫う」実行委員会

TEL:022-773-3322(酒井) / E-mail:arpilleras@survivart.net

Facebook:http://www.facebook.com/arpilleras.jp/



CONFLICT
TEXTILES

Survivart